

佐野鼎講演会

日時 令和元年11月10日(日) 開場13時 開演13時30分

場所 ラ・ホール富士2F 多目的ホール

(富士市中央町2丁目7番11号 富士市勤労者総合福祉センター内)

入場無料 事前申し込み先着250名まで

講演

さのかなえ

富士が生んだ幕末の国際人、佐野鼎

佐野鼎とは

幕末、1829(文政12)年、駿河国水戸島村(現在の富士市)生まれ。17歳で江戸へ出て蘭学や西洋砲術を学び、27歳のとき幕府の長崎海軍伝習に参加。29歳で加賀藩に召し抱えられ、32歳のとき幕府が日米修好通商条約批准のため派遣した「万延元年遣米使節」の随員として米国を訪問。さらに翌年、遣欧使節団に加わり、欧米の先進的な技術や

文化に触れ、教育の重要性を痛感。維新後は新政府の兵部省出仕を経て、1871(明治4)年、東京に共立学校を設立。6年後、志半ばでコレラに罹患し49歳で急逝するが、共立学校はその後も鼎の遺志を引き継ぎ多くの逸材を輩出。日本の発展に先駆的な役割を果たし、現在、私立の名門開成中学・高校として存続している。



①演 題：佐野鼎の誕生地とその先祖



駿河郷土史研究会副会長

たかだ くによし

高田國義氏

(略歴) 1942(昭和17)年、富士市中島生まれ。1978(昭和53)年、成人大学歴史講座を受講後、郷土の歴史に興味を持ち研究を続け、40年にいたる。15年ほど前から、市内水戸島出身の佐野鼎に関心を持ち、研究を続けている。現在、富士北まちづくりセンターで、「富士市の歴史を学ぼう」の講師を務める。

②演 題：一冊の古書から始まった開成をつくった男、佐野鼎の人生を辿る旅



ジャーナリスト、ノンフィクション作家

やなぎはら みか

柳原三佳氏

(略歴) 京都市生まれ。交通事故、司法問題をテーマに取材を続け、主にノンフィクション作品を執筆。『自動車保険の落とし穴』(朝日新書)他、著書多数。佐野鼎の傍系子孫として「万延元年遣米使節子孫の会」や「佐野鼎研究会」に参加、2018(平成30)年末、初の歴史小説『開成をつくった男、佐野鼎』(講談社)を上梓した。

講演会ご参加の方には、柳原三佳著『開成をつくった男、佐野鼎』(講談社、1800円)をプレゼントいたします。

講演会への参加申し込みは、裏面をご参照ください。

主催：静岡県東部開成会

佐野鼎研究会

共催：駿河郷土史研究会

後援：富士市・富士市教育委員会

静岡新聞社・静岡放送

富士ニュース社 岳南朝日新聞社